

C-3 再発・難治多発性骨髄腫に対する bortezomib の治療成績

○磯田 淳¹、馬渡桃子¹、中橋寛隆¹、細川 舞²、眞中章弘³、星野まち子²、松本守生¹、
澤村守夫¹

独立行政法人国立病院機構西群馬病院血液内科¹、同看護部²、同薬剤科³

【目的】当科における再発・難治性の多発性骨髄腫（MM）に対する bortezomib の投与背景と治療効果および安全性について検討する。

【対象と方法】2005年10月以降に当科で bortezomib を投与した再発・難治性 MM35例（年齢41～75歳：中央値60歳）。IgG/IgA/Bence-Jones型18/8/9例であり、Durie-Salmon病期はⅡ/Ⅲがそれぞれ7/28例であった。自家末梢血幹細胞移植後の再発が16例、thalidomide治療歴は12例にあった。治療効果はIWWG効果判定基準、有害事象はCTCAE v3.0で評価した。

【結果】2サイクル以上施行した29例中（投与回数中央値7サイクル）、最良効果はstringent CR/CR/VGPR/PR/SDがそれぞれ1/0/7/11/5例（ \geq PR：68%）であった。Grade4の血小板減少を7例、Grade3以上の非血液毒性を27例（日和見感染症11例、消化器症状9例、末梢神経障害4例、肺障害2例、腫瘍崩壊症候群1例）に認め、減量や中断の原因となった。25例で投与中止となり、病勢の進行11例、移植治療への変更5例、他疾患の治療優先5例、肺障害2例、経済的理由2例によるものであった。2例の早期死亡（脳出血、消化管穿孔）を認めた。

【結語】bortezomibは再発・難治例に対しても高い抗腫瘍効果を示し、stringent CRへ到達した一例も認めた。治療継続にあたっては特に消化器症状と末梢神経障害のマネジメントが重要と思われ、多職種チームによる対応が有効と考えられる。